

CNA Report Japan

Conferencing News & Analysis Since 1999

Newsletter focused on
Collaborative Conferencing

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 13 2005 年 7 月 22 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

ニュース項目

■パイオニアのデータ会議システムとポリコム VSX シリーズビデオ会議システムを統合した遠隔 データ会議ソリューションの提供開始

パイオニア(東京都目黒区)とその 100%子会社のパイオニアソリューションズ(東京都渋谷区)、そしてポリコムジャパン(東京都千代田区)は、パイオニアソリューションズの「サイバーカンファレンスシステム EV(エンタープライズバージョン)」とポリコムのビデオ会議システム「Polycom VSX シリーズ(8000、7000、6000)」をシームレスに統合することで実現した遠隔データ会議ソリューションを発表。

製品構成としては、サイバーカンファレンスシステム、リモコンボックス、Polycom VSX ビデオ会議システムになる。

「サイバーカンファレンスシステム EV」は、高精細大画面のプラズマディスプレイでのデータ共有、ハンドライティングによる書き込み(ホワイトボード・アノテーション)機能によって図面など、詳細データの共有を必要とする製造業を中心に高い評価を得ているデータ会議システム。

サイバーカンファレンスシステムの特長は、(1)遠隔地間で、データの共有、書き込み、保存などの操作が行えるネットワーク会議を行える、(2)Microsoft Office をはじめとする、様々な PC アプリケーションと連携可能な会議用ソフトウェア「CB Link」を標準搭載。(3)オフライン時にも、ディスカッションツールとして活用可能な機能を搭載、(4)大画面、高精細、高輝度プラズマディスプレイ&高性能ハンドライティングデバイスによる鮮明表示などが特長。

この統合ソリューションは、シンプルなりモコンボックスで、電源オンからオフまで一括して操作ができる。このリモコンボックスで、サイバーカンファレンスシステムと VSX システムをワンインターフェイスで操作できる。たとえば、相手先へのコール、カメラ位置調整、画像とデータの切り替えなどがワンタッチで行える。今回の製品発表(7月4日ポリコムジャパン本社)では、リモコンボックスのプロタイプが披露され、リモコンボックスは、ユーザーの要望があれば早急に開発製造しユーザーに提供されるという。(パイオニア)

今回の発表会では、サイバーカンファレンスシステムと VSX システムのデモが披露され、簡単にビデオ会議コールが接続され、その後サイバーカンファレンスシステムを使った資料共有では、CAD、エクセルグラフ、動画の共有、医療データ(ポリープの写真)を高精細に画面に表示。

今回の発表によって、ポリコムジャパンとしては、遠隔コラボレーションツールとしては、下記3種類のデータ会議ソリューションを提供することになる。つまり、「ポリコムの音声会議システム+Polycom QSX(音声+データ)」、「Polycom VSX シリーズ+VisualConcert VSX(音声+映像+データ)」、そして今回の「パイオニア CyberConference System+PolycomVSX シリーズ(音声+映像+データ)」。

サイバーカンファレンスシステムと VSX システムの統合ソリューションは、ソリューション的には最上位に位置づけされる。ポリコムジャパンの全体の売上の 25%から 30%はデータ会議に対するニーズ。

「単なる製品の統合ではなく、共通のインターフェイスにより、操作性、機能性も十分に提供している。お互いの優れた機能による相乗効果を出すことができ、遠隔地間の会議においても高品質な映像や音声とともに臨場感あふれるコミュニケーションを行うことが可能。」(パイオニア、ポリコムジャパン)

	音声品質	映像品質	データ解像度	可搬性
ポリコムの音声会議 + Polycom QSX	7Khz	X	XGA 1024x768	×
Polycom VSX シリーズ + VisualConcert VSX	14Khz	30fps	XGA 1024x768	△
パイオニア CyberConference System+PolycomVSX シリーズ	14Khz	30fps	WXGA 1280x768	◎

*ポリコムジャパンの発表資料による。

既存のユーザーは、必要なコンポーネントを購入するだけで、今回のソリューションにアップグレード出来る。別途新製

品を購入する必要がないため、既存の投資を保護できるという。また、コンサルティング、導入、運用、アウトソーシングについてワンストップでのソリューションの提供が可能。(パイオニア、ポリコムジャパン)

「通常ポリコムとしては、北米からのアライアンス発表が各国へ水平展開されるというのが普通だが、今回は日本発のアライアンスとなる。今回の発表は、日本国内に限られた発表ではあるが、今後の展開によっては、グローバルなスケールでのビジネスアライアンスになる可能性がある。」(ポリコムジャパン)

提供開始時期は、2005年7月より、パイオニアソリューションズ、パイオニアグループ正規販売代理店及びポリコムの認定販売代理店より販売開始。

参考価格としては、サイバーカンファレンスシステム EV、リモコンボックス、Polycom VSX7000 ビデオ会議システムの構成で、1セット 380 万円からとなっている。

■ポリコムジャパン、新製品ビデオ会議システム2機種発表



Polycom VSX 5000

ポリコムジャパン(東京都千代田区)は、ビデオ会議システム Polycom VSX シリーズに新たに「VSX 5000」、「VSX 7000e」の2機種を追加することを発表。

VSX 5000 は、小会議室に最適なエントリーレベルのビデオ会議システム。パッケージ内容は、本体、マイク(1)、リモコン。他の VSX シリーズと同様のシステムプラットフォームを踏襲し、音声(14Khz のステレオ音声、Siren 14)及び映像品質(H.264 をサポート、768kbps まで対応)を保ちながら、小会議室に必要とされる基本的な機能のみを提供した低価格エントリーモデル。IP(H.323 及び SIP)と、ISDN(オプション)に対応。H.323 は、768kbps までサポート。VSX シリーズの上位機種との主な違いは、可動部分を少なくしたベ

ーシックなエレクトロニック PTZ カメラ(パン/チルト/ズーム)を採用した点。

VSX5000 のオプションは、(1)INS64...1回線用と INS64..4回線用の ISDN 用インターフェイス、(2)1画面に自分側と相手側の映像を表示する「デュアルモニター機能」、(3)XGA データ共有機能 (VSX People+Content、People+Content IP)、(4)SoundStation VTX 1000 インテグレーションキットなどがある。

VSX 5000 の価格は、498,000 円(税抜き)。8月中旬より出荷開始。

主要仕様比較	VSX 5000	VSX 7000
データレート	768kbps(IP) INS64 1回線用 INS64 4回線用	1920kbps(IP) 4BRI/PRI/Serial
マイク接続数	最大1	最大3
内蔵 MCU 対応	非対応	対応(4拠点)
カメラ	エレクトロニック PTZ	電動 PTZ
VCR 用出力	N/A	対応
Pro-Motion	受信のみ	対応
4CIF	2 nd Video のみ	対応
VCVSX/PPCIP	対応	対応
推奨使用環境	小会議室～5人 程度	小～中会議室～ 20人程度

*ポリコムジャパン発表資料より。*内蔵 MCU 対応とカメラについては、小会議室使用に合わせた仕様。



Polycom VSX 7000e

(次ページへ続く)

VSX 7000e シリーズのパッケージ内容比較

	VSX 7000e	VSX 7000e-C	VSX 7000e-CM
本体	●	●	●
PowerCam	●	●	●
マイク(1)	●	●	●
リモコン	●	●	●
ImageShareII		●	●
People+Content IP		●	●
VGA エンコーダ		●	●
MPPlus			●
価格	148 万円	182 万円	233.5 万円

*ポリコムジャパン発表資料に基づき CNAレポートにて作成。

*価格は税抜き。

VSX 7000e は、中・大会議室用のフラッグシップモデルである「VSX 7000」の本体とカメラ部分を分離した1Uラックマウント型グループ用ビデオ会議システム。プラズマや液晶などのフラットパネル ディスプレイなどとの組み合わせに最適な形状で、「Polycom PowerCam カメラ」が同梱されている。

デュアルモニター対応で、シングルモニターモード時には、XGAとテレビモニターいずれにも接続が可能。また、ビデオ会議に音声のみの通話を追加するためのアナログ回線インターフェイスや周辺機器及びコントロール向けのデュアル RS-232 ポートなど、小規模インテグレーションに最適なシステム。ステレオ音声、Siren14(14Khz 音声)、768kbps まで H.264 映像符号化方式をサポート。

オプションとしては、People+Content IP、MP Plus 4 拠点内蔵 MCU、ダイレクト VGA サポート、VTX 1000 インテグレーション、INS64 回線 4 回線、INS1500 回線1回線収容。

初年度販売目標は、ポリコムジャパンとしては、VSX 5000 が 2000 台、VSX 7000e が 1000 台を計画している。

VSX 7000e と VSX 8000 主要仕様比較

	VSX 7000e	VSX 8000
Professional audio/video	S-ビデオ及び RCA/phono(unbalanced)	BNC(映像)及び Phoenix(balance d audio)
外部 IR 受光 IF	N/A	Yes
H.264 ProMotion サポート	非対応	対応
6 地点 MCU	非対応	対応
H.264 多地点通話 (4 拠点まで)	非対応	対応
HD対応	非対応	対応予定
推奨使用環境	中規模—大会議室 通常インストレーション	AV インテグレーション 大会議室、講堂、カスタマイズ

*ポリコムジャパン発表資料より。

VSX 7000e と VSX 7000 主要仕様比較

	VSX 7000	VSX 7000e
カメラ部	内蔵	PowerCam
セカンドモニターサポート	オプション(アダプター)	標準
シングル XGA モニタ	非対応	対応
POTS	非対応	対応
Video In	第二カメラ VCR 共有	第二カメラ VCR 専用
Video Out	コンポジットを VCR に使用	VCR 専用
ダイレクト VGA 入力	非対応	対応(オプション)

*ポリコムジャパン発表資料より。

■ポリコムジャパン、機能強化ソフトウェアバージョンアップ発表

ポリコムジャパン(東京都千代田区)は、「VSX バージョン 8.0 ソフトウェア」を発表。

VSX バージョン 8.0 ソフトウェアは、ポリコムの VSX ビデオ会議システムシリーズの機能を強化する最新のソフトウェアで、

Polycom VSX シリーズ全製品に対してアップグレードが可能。8月上旬以降に出荷される全ての VSX シリーズビデオ会議システムに、バージョン 8.0 を搭載。

また、保証期間内または保守契約期間内の VSX シリーズビデオ会議システムは、無償でバージョン 8.0 にアップグレード可。(8月上旬より)ただし、それ以外では、有償(税込み 367,500 円)となる。

VSX バージョン 8.0 ソフトウェアは次の機能が強化されている。(1)H.264 映像圧縮符号化方式を 768kbps までサポート。(2)人物映像とコンテンツ画像の鮮明度を最適化するため、それぞれの帯域を、9 対 1、5 対 5、1 対 9 の 3 種類から選択できるようになり、それぞれの会議でより重要な映像をより鮮明に表示することができる。(3)Second video(書画カメラ、DVD、セカンドカメラ)映像をコンテンツとして送信。(4)「ベースラインモード」により、旧機種との接続性を向上(Telnetより設定。G.711/H.261の固定モード)、(5)スクロールマーカー(掲示板)やディレクトリ、スクリーンセーバー、システム名に日本語入力が可能(日本語、中国語、韓国語の2バイト文字(UTF8)サポート)、(6) Microsoft Office Live Communications Server 2005 に登録・認証が可能。また、Microsoft Windows Messenger に加え、Microsoft® Office Communicator をサポート。Windows Messenger、Office Communicator、Polycom VSX、Polycom PVX のすべてのエンドポイントのプレゼンスを確認してコールできるようになる。(7)H.320 と H.323 通話の両方でシリアル・パススルーをサポート。(医療用機器などでのアプリケーション)。

さらに、VSX 8000 は、以下の機能強化が追加されている。(1)内蔵 MCU 機能を拡張(自局を含む 6 拠点と MCU 通話での H.264 を実現。) 、(2) Pro-Motion H.264(2CIF/2SIF)によって 384kbps からの映像解像度を向上、(3)PowerCam Plus のパフォーマンス拡張。プリセット連動追尾に加えて音声トラッキングを追加、(4)シングルモニター解像度を改善 XGA(1024x768)。

■ポリコムジャパン、PVX バージョン 8.0 を発表

ポリコムジャパンは、PC 用 PVX ビデオ会議ソフトウェア用のバージョン 8.0 を発表した。

PVX バージョン 8.0 での追加点については、(1)最大

1.5Mbps での H.264 通信による映像品質の強化、(2)VGA での人物映像をサポート、(3)H.264 でのコンテンツをサポートし、フレームレートの向上(最大 30fps)、(4)SIPのサポート、(5)H.239 に対応したデータコンテンツ共有を他のビデオ会議システム端末と容易に行える、(6)UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ)に対応、(7)ネットワーク設定での機能強化、ロケーションプロファイルの追加、非対称帯域通話のサポート、(8)Polycom GMS(Global Management System)でのリモート管理の強化、(9)新たなセキュリティ強化などが含まれる。

今回の SIP のサポートによって、(1)Microsoft Office Live Communications Server 2005 への登録と認証、(2)PVX ユーザーを Microsoft Messenger のメンバーリストに追加可能、(3)ビデオメンバーのステータスを更新するプレゼンス情報を LCS に送信、(4)E-mail アドレスへのダイアリング、そして、LCS 以外には、ノートルネットワークス社の Nortel MCS 5100 プラットフォームとの統合が可能になった。

初年度販売目標は、ポリコムジャパンとしては、PVX が 2000 ユーザーライセンスを計画している。価格はオープンプライス。

■NTT PC コミュニケーションズ、SIP ベースの MPEG2 テレビ会議システム販売開始



ViPr(ヴァイパー)

NTT PC コミュニケーションズ(東京都港区)は、英マルコーニ社が開発した、テレビ会議システム「ViPr(ヴァイパー)」の日本国内における輸入販売提携をし、5月16日からNTT

PC のネットワークサービスと組み合わせた「ブロードバンドテレビ会議ソリューション」の提供を開始した。

マルコーニ社は、キャリアからエンタープライズ向けのネットワーク製品を提供するメーカーで、日本国内においても、同社製品を採用したネットワークインフラが数多く構築されているという。その技術力をベースに今回同社では、ViPrを開発した。

ViPr は、オールインワンシステムで、人間工学に基づく、水平に配置した映像レイアウトにより臨場感の高い会議が行える。

ViPr は、専用の多地点接続装置(MCU)なしで、最大 15 拠点の多地点テレビ会議が行える。映像については、MPEG2 コーデックを使っており DVD 並の映像とクリアな音声で会議が行え、使用帯域も各拠点間別に 500k、1M、2M、4M と 4 段階で設定できる。さらに、ViPr は、IP マルチキャストや IPv6 にも対応している。

操作性については、タッチパネルでワンタッチ操作ができる設計になっていて、操作訓練はほとんど必要がない。テレビ会議を行う際は相手へ番号をタッチパネルで選びコールするだけ、そしてボリュームや映像のコントラスト等の調整は、全てタッチパネル操作になる。また通常の電話と同じように保留、転送、通話中着信なども行える。受話器も付属しており、周りに会話内容を聞かれないようにすることもできる。

さらに、ViPrはWindows パソコンのモニターとしても使え、パソコンの画面をスキャンして配信するとともに、アプリケーションをリアルタイムで共有するデータ会議も可能。

ViPr の基本構成パッケージ(1セット)は、「ViPr アプリケーションサーバ(SIP サーバ)」「(1台)に、「ViPr デスクトップターミナル」(2台)構成となる。後は順次必要に応じてターミナルを追加していき拠点を増やしていくことになる。また、接続されている各デスクトップターミナルへの DVD 並の映像をリアルタイムでストリーミング配信する「ViPr ビデオサーバ」がある。

その他のオプションとしては、ViPr を H.323 システムと通信をすることを可能にする「SIP-H.323 ゲートウェイ」、ViPr と H.320 システムの通信を可能にする「H.323-H.320 ゲートウェイ」、既存電話網との接続に使用する「音声ゲートウェイ」、電話から ViPr テレビ会議へ参加を可能とする「ユニキ

ャストオーディオミキサー」、スキャンコンバーターを用いることで前端末の会議中の映像と音声を録画、録音することができる「VMI(ViPr Media Interface)」などがある。ディスプレイ、カメラ、マイクは外部機器を利用することも可能。

また、NTT PC の保守は、24 時間 365 日の対応が可能。

ViPr の利用シーンとしては、ポイント・ツー・ポイントの小規模なテレビ会議から、ハイエンドでの多地点会議に対応するが、具体的には、(1)ISP、ASP などの遠隔コミュニケーションサービスのインフラ、(2)企業の遠隔採用面接、(3)教育機関の遠隔授業や企業内での遠隔公衆、(4)夜中や過疎地などでの緊急時の遠隔診療、(5)既存の ATM 対応 MPEG2 コーデックのリプレース、(6)河川、道路、公安、監視などの映像を見ながらの検討会議など、幅広い利用シーンに適用できると考える。

海外では、年間 600 台のデスクトップターミナルの導入実績があり、米連邦政府、フロリダ州やワシントン州などの遠隔裁判、自治体ネットワーク、アリゾナ州立大学、イリノイ州カーリーホスピタルなどでの遠隔医療、またコロンビア公立学校、ボーズマンチャーター音楽大学などでの遠隔授業などに利用されている。

ViPr デスクトップターミナル

入力	アナログ音声入力端子、S-Video、XGA 入力端子など
出力	音声出力端子、WXGA 出力端子など
モニター	17 インチワイドスクリーン、解像度 WXGA(1280x768)
音声	16bit x 16kHz サンプリング、Hi-Fi オーディオステレオ出力、ハンドセットの使用可能
カメラ	高品質マクロフォーカス、パン/チルト/ズーム、 4 CIF 30 フレーム/秒 外付けカメラ使用可
画質遅延	平均 80ms
	外寸:48.9cm(高)x62.2cm(幅)x18.4cm(奥行) 重量:12.7kg

(次ページへ続く)

ViPr アプリケーションサーバ(SIP サーバ)

特長	*ターミナル同士の呼制御に使われ、1台につき100ターミナルまでサポート。 -Windowsのブラウザ上GUIでの設定可能 -SIP URIは、「電話番号」として「Eメールアドレス」のように表記(marconi@sip.nttpc.co.jp) -各SIP URIに個人の情報(氏名、部署、住所)や複数の電話番号登録が可能。 -LDAPを使ったディレクトリーの検索が可能 -RFC3261に準拠するSIP互換ユーザーエージェントに対応、標準SIP電話及びゲートウェイとの送受信が可能 -冗長化されたHA-SIPサーバモデルもある
特長(つづき)	外寸:4.4cm(高)x48.3cm(幅)x61.6cm(奥行) (ラックマウント型) 重量:10.9kg

ViPr ビデオサーバ

特長	-4CIF、30フレーム/秒で配信 -入力端子:S-Video 端子(映像)、ステレオ端子(音声)
	外寸:4.4cm(高)x48.3cm(幅)x61.6cm(奥行) (ラックマウント型) 重量:10.9kg (※現在モデルチェンジ中)

■ システム・ケイ、Web会議システム開発用ツールを発表



システム・ケイ(北海道札幌市)は、Web 会議システムを簡単、自由に構築できる「WebConf SDK」を発表した。発売日は、7月13日。

WebConf SDKは、同社が現在提供しているWeb会議システム「agoraZone(アゴラゾーン)」の会議機能部分を、Active Xコンポーネント化した製品。

WebConf SDKが提供するコンポーネントは、ビデオコントロール、音声コントロール、プログラム共有コントロール、Webコントロール、チャットコントロールがある。

提供している機能としては、ログイン機能、会議の一覧表示、会議の作成、予約会議の作成、パスワード付き会議の作成、会議招集者の指定、ビデオ会議機能、プログラム共有画面キャプチャー機能、Web共有機能、ホワイトボード機能、テキストチャット機能、アンケート機能、会議資料アップロード機能、開催中会議へのログイン者招集機能などがある。

WebConf SDKの特長としては、(1)サーバークライアント間の煩雑な手続きを、まとめ処理して単純化しているため、各コンポーネントの使い方は簡単。(2)会議機能例としてのサイトサンプルが附属しているため、動作を確認しながらの開発も可能。サイトサンプルのHTMLデザインを変更するだけでも、オリジナルな会議システムとしての構築が可能。(3)コンポーネントの組み合わせ方によって、1対1の遠隔相談システムやeラーニングといった会議以外のシステムを開発することも可能。

販売価格は、税込み787,500円。

システム・ケイは、ビジュアル・コミュニケーションシステムの開発を中心として、ICS(インターネットカメラシステム)、DTC(Desk Top Conference system) / Web 会議システム、3D-GIS等、各種製品の開発・サービスの提供等を行う。インターネット技術を中心としたソフトウェア開発の多彩な開発実績を持ち、カスタマイズにも柔軟に対応。

編集後記

BCS Tokyo 2005は、無事終了いたしました。来場者数は1075名でした。次号で簡単ですが展示会のレポートを行います。ところで、当日会場で、来場者に「会議システムハンドブック(入門編)(16Pカラー)」を無償配布しました。あまりがありますので、必要な方は、BCSTokyo事務局より無償で郵送させていただきます。k@cna.jpまで、郵送先住所を添えてご連絡ください。お一人様1部とさせていただきます。あまりがなくなったらご容赦ください。申込:7月29日まで

CNAレポート・ジャパン
 編集長 橋本 啓介 k@cna.jp(CNAレポート・ジャパン)
 Vol 7. No.13 2005年7月22日号(終り)次号 Vol 7. No. 14は、2005年7月31日の発行を予定しております。